
詩の心音

柊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

詩の心音

【Nコード】

N0451V

【作者名】

柊

【あらすじ】

随筆。日常に起きた事や、それに伴う感情・心象風景など。

曇りや雨の日の飛行機は、何故、低空飛行なんだろう？

そんなことを思いながら、私は自転車から降りて、オモチャの模
型のような飛行機を見上げていた。

また、風が出てきた。

風が強いのは、嫌いだった。心まで、乱すから。

一ヶ月前、何度目かの転職をした。パートだけど。というか、私
は、アルバイトかパートしかしたことがない。正社員の経験は一度
もない。フリーターから結婚して主婦になった。社会人としては、
おちこぼれ。社会不適合者。ニート一歩手前。アウトロー……

少し考えるだけで、自虐的な言葉がすぐ並ぶ。
けれど、何度、職場を変えても思う。

私は、会社というものに、ほとんど向いていない。

今まで、同じ会社で、三年以上勤務していたことがない。二年く
らい経つと、これといった理由がなくても、何となく辞めたくなっ
て、辞めてしまう。何でだろう？

それと、入社したての頃も仕事が嫌になる。まさに、今。すでに
もう、あと二年くらいで辞めるのだろうか、考えている。

私は第一印象も悪い方だ。女なのに、女性特有の愛想が無い。プ
ライベート以外では、喜怒哀楽もあまり表に出さない。何を考えて
いるか分からないタイプだ。そして、人見知り。プラス、人嫌い。
まるで、頑固親父のようだと、夫にも言われる。そう、私は頑固親
父なのだ。

胸焼けのように、ムカムカとした記憶が、また鮮明に思い出される。

こんなことが、結構な頻度でよくある。その殆どが嫌な記憶だ。忘れられたらどんなに楽だろうかと、思う。

以前、働いていた会社にいた、私の同い年の女、真弓。

真弓は、自分の父親を喜ばせる為に子供を作るのだと、自慢げに言っていた。父親が子供好きらしい。「こいつ、馬鹿だ。」

私は瞬時にそう思った。軽蔑したのは言うまでも無い。

大体、人の為に子供を作るといふ価値観が可笑しい。喜ばせるとは何だ？子供は、人を喜ばす為の道具じゃない。

真弓は、私によく、

「柊さんは、子供作らないんですかあ？」

と、甘ったるいブリっ子口調で聞いてきた。もちろん、

「作りませんよ。」

と、冷血な一言で片付けてやったが、同い年で既婚で子供無しと、状況が同じ故に気になるのだろう。とてもいい迷惑だ。

あやまちは 私がこの世に生まれたこと

落としてください 貴方の手で 夢のように

甘いギロチン

機能不全家庭。割と最近知った言葉だ。私が育った家庭は、これに当てはまる。

私の親は世間体を重んじる親だ。幼稚園や小学校低学年の頃、私が学校でした不可解な行動を連絡帳に書かれた時があった。

「何でこんな事するんだ？あんたが外でおかしな事すると、どんな躰してるんだって、お母さんが言われるんだよ！」

よく、そう言われた。母は、娘の心情よりも、自分の保身が大事だった。

これも性的虐待なのだろうか。

私が10歳くらいの頃、偶然聞いてしまった会話を、今でも鮮明に憶えている。

父が、同僚らしき人に、私の身体の発育具合を聞かれていた。

「おっぱい出てきた？」

「出てきた」

「毛は生えた？」

「まだ生えてねえ」

まともな親ならどんな風に対処するだろう。
その時の父は、ニヤニヤと嬉しそうだった。

お陰で私は、自分の実家が大嫌いになった。帰省も、数年に一度

しかしない。

あの人は、今頃どうしているだろうか？と、ふと思う。

あの人というのは、以前の職場にいた人で、私より二歳年上で娘が一人、夫が無職で二人目を妊娠中だった人だ。名前は、悦子。

最初は妊娠はしていなかったが、夫が会社を辞めてしまってから妊娠したらしい。

（全く、どういう神経してるんだ。無職のくせにゴム無しでヤルのか？）

やはり私は軽蔑せざるを得なかった。夫の方だけじゃない、受け入れる方も同罪だ。本人には一応、「おめでとうございます。」と言ってみた。心にも無いけど。すると、

「柊さんは、子供作らないの？」

（あなたの様になりたくないなので作りませんよ！）と、ハラワタが煮えくり返りそうだったが、

「作りません。」

一言だけ答えた。

予想通り、彼女は何とも物足りなそうな顔をした。

そんな話をしたのが夏頃で、秋になっても悦子は働いていた。腹部は、だいぶ目立つようになっていた。ま、元々太めな彼女だった

ので、それでも大きく変化したようには思えなかったが。

秋も深まってきた頃だったろうか、ある日、悦子を見るからに体調が悪そうだった。

その日の午後、悦子とペアで仕事をする事になった。やはり、具合が悪そうだ。息が荒い。ここで、気遣いの言葉の一つも言ってもよかったが、私は意地悪なので言わなかった。

翌日、朝、一本の電話が入った。

悦子が病院に担ぎ込まれたらしい。連絡してきたのは、悦子の無職の夫だという。

（このまま本当に流産したりして…） 心の中でほくそ笑む自分がいた。

それから暫くして、詳細が明らかになった。

病院に担ぎ込まれて、そのまま悦子は出産してしまったらしい。

妊娠5ヶ月での早産だった。生まれて来たのは当然未熟児で、NICUに入っているとの事だ。

同職場の圭子が悦子の携帯にかけると、どうしていいか分からないと言って、泣き崩れるばかりだったらしい。

私に棲む悪魔が、ケタケタと笑い出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0451v/>

詩の心音

2011年10月6日15時50分発行